

ガソリンへの支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

今月は、原油価格の高騰の影響により、価格の値上げが続いているガソリンへの支出について、家計調査結果からみてみましょう。

ガソリンへの支出の動向

平成19年7月から20年6月のガソリンの1世帯当たり月別支出金額及び前年同月の支出金額の推移をみると、19年9月以来10か月連続で前年同月の支出金額を上回っています。特に、いわゆる暫定税率が期限切れとなり、ガソリンの価格が下がった20年4月は前年同月と比べると1,407円の増加となりました（図1）。

地方によってみられる支出の違い

次に、平成20年4月及び5・6月平均の1世帯当たり支出金額を地方別にみると、他の地方よりガソリンへの支出が少ない関東や近畿では5・6月は4月よりも下回っています。これは、5月に暫定税率が復活したことや原油価格の高騰の影響で、ガソリン価格が値上りしたことにより、ガソリンの消費を節約したためとみられます。

一方、東北や北陸では日々の生活にガソリンが必要な世帯が多いために関東や近畿ほど節約効果が表れず、5・6月は4月とほぼ同額となっています（図2）。

値上げの影響を受けたガソリンへの支出

最後に、平成20年6月のガソリンの1世帯当たり日別支出金額をみると、1週間のうち土日に多く支出する傾向がみられます。また、月末に近づくにつれて、7月からのガソリン価格の値上げに備えた駆け込み需要がみられます。特に、30日は545円と支出が多く、これは20年6月の日別平均（185円）の約2.9倍になっています（図3）。

このように、家計調査の結果をみると、世帯の消費の動向を的確につかむことができます。

図1 ガソリンの月別支出金額の推移
(平成19年7月～20年6月)

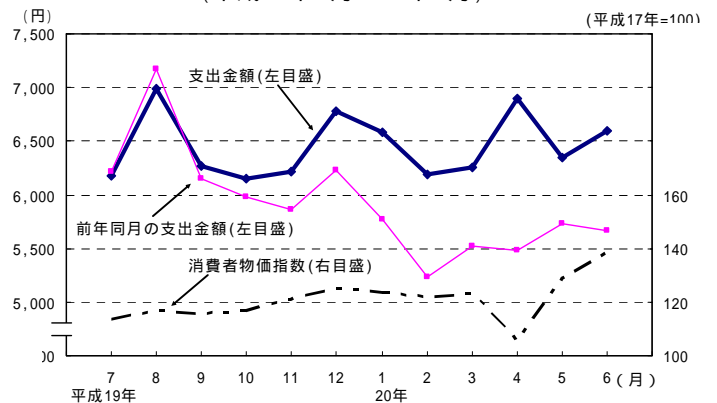


図2 ガソリンの地方別支出金額
(平成20年4月及び5・6月平均)

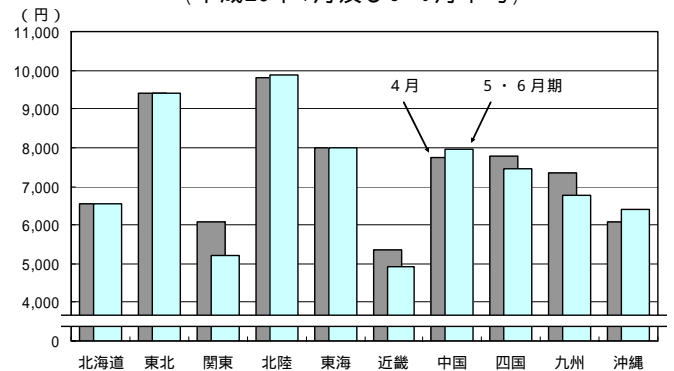


図3 ガソリンの日別支出金額の推移
(平成20年6月)

